



—— 座談会 ——

# 副代表理事に就任して

【出席】

**有岡 康介氏**

三有研器(株)／代表取締役  
(副代表理事・高松第6支部)

**関本 亜紀氏**

(株)アロパー／代表取締役  
(副代表理事・高松第7支部)

【司会】

**渡辺 功一郎氏**

ダイレクト(株)／代表取締役  
(広報・情報化委員会・三木支部)

副代表理事を受けたときの  
思いは？

**司会** 早速ですがおふたりに  
お聞きします。副代表理事を  
引き受けられたとき、どんな  
思いがありましたか。

**関本** まず、「えっ？なぜ自  
分が」でした。驚きました。な  
ぜ自分が選ばれたんだろうと  
思いました。有岡さんは？

**有岡** 思いましたね。

**関本** 自社が移転する事が決  
まっていたので忙しさもあ  
り、お引き受けするに当たっ  
て随分考えました。どうして  
私なのか？ 私なりの答えは、  
女性経営者としての視点もこ  
れからの香川同友会にとって  
必要なだろうなという点で  
した。男女で簡単に分ける事  
はできませんが、感覚やひら  
めき、瞬発力などは比較的女  
性のほうが得意な気がしてい  
ます。例えば何か新しい事が  
始まれば「とりあえずやって  
みたい！」といった感じです。  
女性副代表理事としては、  
橋本さんや中西さんが既に先

輩副代表理事としてご活躍さ  
れているので「私も自分らし  
くやってみたい！」と思い、  
お引き受けしました。橋本さ  
んや中西さんの背中を見つつ  
自分らしく新しい環境の中で  
貴重な経験を積み重ねていき  
たいと思っています。

念のため、「どうして私が副  
代表理事に？」と尋ねてみま  
した。(笑)「持ち前の明るさや  
前向きな発言、空気感」とい  
う返事がありました。その時、自  
社でも同じことを求められて  
いると感じました。そういつ  
た意味では自分らしくやって  
いけると確信しています！

また、副代表理事は香川同  
友会の代表役員なので、想  
いやビジョンをずっとポジテイ  
ブに発信し続けられるとも思  
いました。これからも会内の  
活動と並行して行政等との会  
合や懇談会などで、肩書で先  
方の感触が随分変わること  
を経験したので、発信者として  
肩書にはそれなりの重みがあ  
るとも感じています。

**有岡** 共同求人委員長を兼任させてもらっています。私の場合、共同求人委員長になって初めて地域のことを本気で考えるようになりました。同友会運動に関わって13年目になりますが、それまでは考えていたつもりだったのですが、正直地域に関してはどう取り組めばいいのか迷いがありました。

共育型インターンシップの受け入れをやりだしてから、未来に繋ぐ高校生に自社や同友会として何を伝えられるのか。自分たちは彼らが帰ってくる場所を本当につくれているのかなど、共同求人委員長として真剣に考え始めました。その過程でこういうことは一社ではできないとか、香川の魅力を発信するには、同友会だけでなく行政や教育機関など、いろんなところとの連携が必要だ等々、他団体との情報交換や多様な連携などを考えるようになりました。

ですから副代表理事になれ

ば、もしかしたらできることが見えてくるのではないかと考えました。もちろんそれらは、すぐに形になるものではないのですが、関本さんのお話にもありましたが、副代表の役割はまだまだ勉強中なので、これから何ができるかを少しずつ考え、形にしていければと思います。やはり、若者が帰ってきたような地域をつくりたいという思いは強いです。

#### 「地域」がキーワード

**司会** そうですね。地域がキーワードで、昨年に三木支部が設立されましたが、地域密着型の中で三木支部は大きな成果を出していますよね。

**有岡** はい。三木支部の立ち上げられた経緯も、それに応えた同友会も素晴らしいと思います。今後の取組に関して、みんなで時代と地域の状況に合わせた形を模索しながら考えていき、少しずつ変わりがら取り組むことが一番いい

ことだと個人的には思っています。

**関本** 入会した当初ぐらいに、地区会では地域別の話が出ていたと思います。上がっては消え、上がっては消えの繰り返しで、なぜそうなるのかなと思っていました。たぶん、自分たちの支部に対して愛着があり、支部のみんながいるから今があると受け止めているので、そういう中でいきなり地区で分けられると、やはりそこには壁があると思っていました。

ただ、今のお話のように地元愛があれば地域が活性化するためにはと、考えるでしょうし、当然愛着も湧いてくると思います。

**有岡** 「地域と共にある中小企業」と同友会では言われていますが。会員さんそれぞれの地域の広さや定義が様々なので、さつと分けられないわけです。私の地域の定義と関本さんの地域の定義は違うと思いますから。そこが難しいところです。

**司会** たしかにそうですね。支部によっていぶん異なっていて、例会設営から守られていないところがあるので、



有岡康介氏

そういうところだけでも支部再編成のきっかけとして進んでいけばと思います。いかがですか。

**関本** それぞれにみなさん支部愛があるので難しいところですが、ただ愛のかけ方が少し違うような一面も見られるような気がします。

**有岡** 目的と手段が少し違うなど感じるところはあります。同友会で何のためというのであれば、本来はそこに向かうために一番適切な方法で最短距離でということになります。もしかしたらそこまでは望んでいない状況のところもある。一概には決めつけられないところがあります。

**司会** 直線で進むことが必ず正解とは限らないわけですね。回り道をしながら最後にはそこに辿り着くという。

**有岡** そうですね。巻き込みながらとか、みんななどということになったときに出る答えは必ず正しいわけではないわけですね。やってみないとわからないところがあるので、本当にいっばいやってみたいらいんじゃないかと思えます。その中からチョイスして、一歩ずつという感じです。

**関本** 初めて理事会に出席したとき、代表理事や副代表理事は自分にとってはとても遠い人、そんな存在でした。その意識が少しずつ変わって

いったのは、いろんなことがわかるようになってきたからだと思います。例えば初めて全国大会に参加したとき、みなさんが何を言っているのか全く理解できなかったのです。が、何度か全国大会や委員会に参加をしていくうちに、どんどんわかってきました。同時に香川同友会への理解も深まりました。

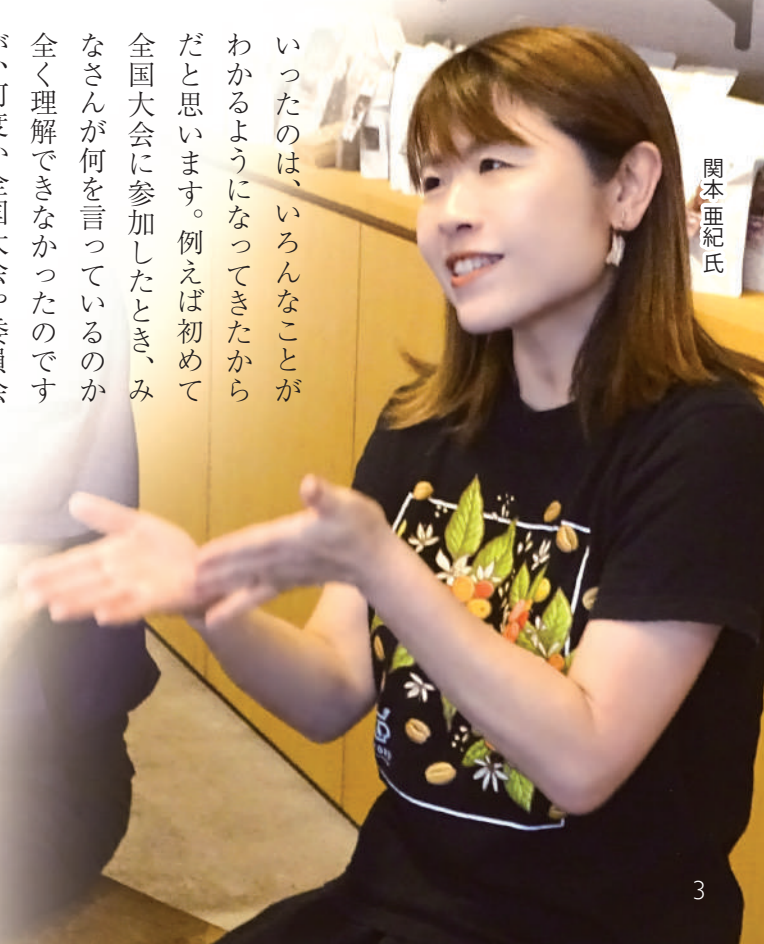
**有岡** そうですね。入会したばかりの頃は、皆さんのお話しが全く理解できませんでした。その理由の一つに、私自身の立ち位置の問題があったからだろうと今は考えます。私自身、経営者でなかったことが大きな要因だろうと思います。立場も中身も経営者ではなかったのです。

**関本** それは全く同じです。周囲が段々と経営者にさせてくれたんですね。

**副代表理事になって変わったことは？**

**司会** そうして一段ずつ上って副代表理事になったわけですが、副代表理事になって変わったことはありますか。

**関本** 先ほども少し触れましたが、対外的な見られ方が変わった気がします。私自身は以前と何も変わらず同じこと







め巻き込み力があるので、彼女から新しい風が吹くことをきつと期待されているように感じます。

### 副代表として

**どんなことがしたいですか？**

**司会** 最後に副代表として、こんなことがしてみたいと考えていることがあれば、聞かせてください。

**関本** 共育型インターンシップをどんどん香川県全域に広げていきたいですし、ここに共感してくれる会員さんが増えていくといいなと思っています。この取り組みがボランティアではないんだとしっかり伝えることも重要です。

企業が成長していけば、その地域

が発展する地域づくりに繋がりが、共感した経営者さんが同友会を創りあげる。こういったところを正確に発信していきます。

**司会** そうですね。それができる企業を増やしていくためにも指針書の成文化は欠かせませんね。

**関本** 本場にその通りです。  
**有岡** 少し被るかも知れませんが、共育型インターンシップもそうですが、香川の優良

コンテンツをみんなが使えるようになってほしいと思います。そしてそれが体系化して、みんなが「会社がよくなる」という流れがつかれるために、動けたらいいなと思います。

**司会** それぞれの活動が部分的なので、それが全体に広がっていったら変わってくると思います。少し時間はかかります。

**関本** 中小企業の課題は発信力だと聞いたことがあります。が、同友会のコンテンツの発信力もまだまだ弱いのもし

ませんね。そんな気がします。  
**司会** そこが長年の課題でもあるようです。

**関本** ですから、広報・情報化委員会に入ったら自社の広報も上手になってきたというのが理想なので、一緒にやりたいですね。

**有岡** せっかく同友会にお金や時間を割いているわけですから、自社経営のために使えるような環境に少しでも近づければと思いますね。

**司会** 同友会に入ってから、会での経験を自社に生かしたことはありますか。

**関本** あります、あります！ほぼ全てが学びに繋がっています。経営者としての姿勢や社内での風土づくりなど本当に会社で実践することがたくさんありました。そして何よりも理念ができたことでみんなと一緒に同じ方向を見ることができるとい

ました。社員もこの理念を誇りに思ってくれています。同友会で本気で学んできたことを

一生懸命に取り組んでいる姿を見せることも大切だと実感しています。今では社員の中にも同友会に関心を持つてくれています。

**有岡** 私のところも一緒に一番は経営指針書です。経営理念を成文化したことは非常に大きな出来事でした。伝えるものができ、自分の中で伝える言葉ができたことは素晴らしいことです。

**司会** おふたりから副代表理事としての決意と夢を丁寧に語っていただきましたが、私たちにも参考になるお話がたくさんありました。新しい副代表理事のこれからを見守っていきたいと思います。どうもありがとうございます。

